

第3部 総括

第1章 評価結果

1 指標の評価結果

第2部で記載した基本目標ごとの指標の評価結果は以下のとおりです。

なお、評価結果の「○」「△」「×」については、本書の最初のページ「一環境白書における評価の考え方」を参照してください。

表3-1 基本目標1「だれもが環境の保全と創造に関心を持ち、意欲的に取り組むまちをめざします」の評価結果

施策		指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
1-1	環境教育の推進	こどもエコクラブ登録団体数 ^{※1}	-	-	-
		こどもエコクラブ登録会員数 ^{※2}	-	-	-
		環境保全標語・ポスター作品コンクール応募者数 ^{※3}	17	×	△
		環境教育拠点施設数 ^{※4}	-	-	-
		さいたま市環境フォーラム参加者数	21	新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため 評価不可	
		さいたまこどもエコ検定実施児童数 ^{※5}	27	○	○
		環境局ホームページアクセス件数 ^{※6}	29	○	○
1-2	環境保全活動の促進	環境保全活動団体数	31	△	△
		さいたま市環境フォーラム参加者数【再掲】	31	新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため 評価不可	
1-3	ライフスタイル転換の促進	エコライフDAY参加人数	39	新型コロナウイルス感染症の影響により報告を一部不要としたため評価不可	
1-4	都市環境を支える産業の育成	産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績 ^{※7}	47	○	○
		環境マネジメントシステム認証取得事業所件数	49	△	△
1-5	国際協力の推進	JICA研修生等受入数(水道局) ^{※8}	-	-	-
		環境関連施設における海外視察受入数	55	新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため 評価不可	

表3-2 基本目標2「自然と共生し、歩いて楽しい緑豊かなまちをめざします」の評価結果

施策		指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
2-1	生物多様性・自然環境の保全	生物多様性の認識状況(言葉の認知度)	57	×	×
		市民参加型生きもの調査の仕組みの構築・稼働 ^{※9}	-	-	-
		特定外来生物(アライグマ等)被害に関する相談への対応率 ^{※10}	63	○	○
		市域における担保性のある緑の面積 ^{※11}	65	△	△
2-2	快適環境の創造	身近な公園整備数 ^{※12}	69	○	○
		自然緑地等の指定面積	71	△	×
		屋上・壁面等緑化を施した公共施設数	72	○	△
		憩える場所の整備延長(高沼用水路) ^{※13}	78	○	○
2-3	景観の保全	優れた都市景観に関する啓発のための表彰 ^{※14}	-	-	-
		景観重要建造物・景観重要樹木の指定 ^{※15}	81	○	○
		耕地面積 ^{※16}	-	-	-
2-4	自然とのふれあいの確保	学校教育ファームの実施校数 ^{※17}	93	○	○
		市民農園の区画数 ^{※18}	94	○	○
		オープン型緑地の指定面積	95	×	×

表3-3 基本目標3「地球規模の環境問題に、地域から行動するまちをめざします」の評価結果

施策		指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
3-1	地球温暖化対策の推進	温室効果ガス1人当たり排出量 ※19	98	○	△
		温室効果ガス総排出量 ※20	98	○	△
		環境負荷低減計画提出者数 ※21	106	○	△
		(仮称)さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定状況 ※22	-	-	-
		市内次世代自動車登録台数 ※23	115	○	○
3-2	地球温暖化対策以外の地球環境保全の推進	カーエアコンのフロン類回収量(CFC)	127	-	○

表3-4 基本目標4「さわやかな空ときれいな水のある環境負荷の少ないまちをめざします」の評価結果

施策		指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
4-1	大気環境の保全	一般局における大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質)	129	○	○
		有害大気汚染物質に係る環境基準達成率(ベンゼン、ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)	129	○	○
		光化学オキシダントの原因物質の濃度(非メタン炭化水素(午前6時から9時)の年平均値)	129	○	○
		自排局における大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質)	132	○	○
		市内次世代自動車登録台数【再掲】 ※23	135	○	○
4-2	水循環の保全	水質汚濁に係る環境基準達成率(BOD75%水質値達成地点/測定地点)	138	○	○
		公共下水道普及率 ※24	139	○	○
		公共施設(小学校)への雨水貯留タンク設置数 ※25	-	-	-
		水道使用量(市民1人1日当たり)	145	△	×
4-3	土壌・地盤環境の保全	単年度沈下量2cm以上の面積	148	○	○
4-4	生活環境の保全	騒音・振動・悪臭に関する公害相談解決率	151	△	△
		道路交通騒音に係る環境基準達成率	151	○	△
		新幹線鉄道騒音に係る環境基準達成率	154	○	○
4-5	化学物質対策の推進	ダイオキシン類一般大気環境基準達成率	157	○	○
		ダイオキシン類水質土壌環境基準達成率	157	○	○
		環境コミュニケーションの実施回数 ※26	159	○	○

表3-5 基本目標5「ごみを減量し、資源を有効活用するまちをめざします」の評価結果

施策		指標	頁	対前年度比	対年度目標値比
5-1	一般廃棄物対策の推進	市民1人1日当たりのごみ総排出量 ※27	160	○	○
		一般廃棄物再生利用率 ※28	168	○	△
		一般廃棄物最終処分率 ※29	171	○	○
5-2	産業廃棄物対策の推進	産業廃棄物最終処分率 ※30	177	○	○

※ 産業廃棄物最終処分率は、平成27年度(2015年度)の評価結果である。

表3-6 指標の見直し等

施策		指標	頁	見直し前	見直し後	理由	対応年度	
※1	1-1	環境教育の推進		子どもエコクラブ登録団体数	削除	事業の運営がさいたま市ではないことに加え、「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため、よりふさわしい環境教育の指標として「環境保全・標語ポスター作品コンクール事業」、「さいたま子どもエコ検定」に指標を置き換えた。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)	
※2	1-1	環境教育の推進		子どもエコクラブ登録会員数	削除	事業の運営がさいたま市ではないことに加え、「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため、よりふさわしい環境教育の指標として「環境保全・標語ポスター作品コンクール事業」、「さいたま子どもエコ検定」に指標を置き換えた。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)	
※3	1-1	環境教育の推進	17	-	指標:環境保全標語・ポスター作品コンクール応募者数 目標値:2,500 (令和2年度(2020年度))	「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)	
※4	1-1	環境教育の推進		環境教育拠点施設数	目標値:20施設 (平成32年度(2020年度))	目標値:20施設 (平成29年度(2017年度))	「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため。	平成26年版～(H25年度(2013年度)実績)
				指標:環境教育拠点施設数	-	削除	目標の達成、目標年度の経過のため、指標を削除した。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)
※5	1-1	環境教育の推進	27	-	指標:さいたま子どもエコ検定実施児童数 目標値:5,500 (令和2年度(2020年度))	「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)	
※6	1-1	環境教育の推進	29	目標値:3000件/日 (平成32年度(2020年度))	目標値:6300件/日 (令和2年度(2020年度))	実績を踏まえ、目標値を上方修正した。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)	
※7	1-4	都市環境を支える産業の育成	47	名称:産学連携による共同研究開発に対する支援実績	名称:産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績	指標の具体的な説明となるよう、指標名称を補足した。	平成25年版～(H24年度(2012年度)実績)	
※8	1-5	国際協力の推進		目標年度: 平成32年度(2020年度)	目標年度: 平成27年度(2015年度)	職員定数減により、積極的な受入体制の確立が困難であるため。	平成27年版～(H26年度(2014年度)実績)	
				指標:JICA研修生等受入数(水道局)	削除	目標の達成、目標年度の経過のため、指標を削除した。	平成29年版～(H28年度(2016年度)実績)	
※9	2-1	生物多様性・自然環境の保全		指標:市民参加型生きもの調査の仕組みの構築・稼働	削除	目標の達成、目標年度の経過のため、指標を削除した。	平成27年版～(H26年度(2014年度)実績)	
※10	2-1	生物多様性・自然環境の保全	63	指標:特定外来生物(アライグマ等)の捕獲数 目標値:100頭 (平成24年度(2012年度))	指標:特定外来生物(アライグマ等)被害に関する相談への対応率 目標値:100% (平成25年度(2013年度))	「総合振興計画新実施計画(平成23年度改訂版)」との整合を図るため、アライグマをはじめとする特定外来生物に関する被害相談に対し、関係法令に基づく適切な対応を常時実施していくことに修正した。	平成25年版～(H24年度(2012年度)実績)	
				目標年度: 平成25年度(2013年度)	目標年度: 平成29年度(2017年度)	目標年度を経過したため、「総合振興計画後期基本計画実施計画」と整合を図り、目標年度を修正した。	平成27年版～(H26年度(2014年度)実績)	
				目標年度: 平成29年度(2017年度)	目標年度: 令和2年度(2020年度)	目標年度を経過したため、「総合振興計画後期基本計画実施計画」と整合を図り、目標年度を修正した。	令和元年版～(H30年度(2018年度)実績)	

施策		指標	頁	見直し前	見直し後	理由	対応年度
※11	2-1	生物多様性・自然環境の保全	65	指標値： H21年度実績 5889 H22年度実績 6198 H23年度実績 6204 H24年度実績 6216 H25年度実績 6222 H26年度実績 6228 H27年度実績 6243 H28年度実績 6282 H29年度実績 6280 H30年度実績 6278 (単位:ha)	指標値： H21年度実績 5888 H22年度実績 6081 H23年度実績 6079 H24年度実績 6095 H25年度実績 6104 H26年度実績 6110 H27年度実績 6113 H28年度実績 6139 H29年度実績 6169 H30年度実績 6169 (単位:ha)	集計の対象とする緑の定義の見直しを行ったため。	令和2年版～ (令和元年度 (2019年度)実績)
※12	2-2	快適環境の創造	69	指標:身近な公園整備率 目標値:88.2% (平成32年度(2020年度))	指標:身近な公園整備数 目標値:868公園 (平成29年度(2017年度))	「総合振興計画後期基本計画実施計画」との整合を図るため。	平成28年版～ (H27年度実績)
				目標値:868公園 (平成29年度(2017年度))	目標値:903公園 (令和2年度(2020年度))	「総合振興計画後期基本計画実施計画」との整合を図るため。	令和元年版～ (H30年度(2018年度)実績)
※13	2-2	快適環境の創造	78	目標値:2箇所 (平成24年度(2012年度)) 名称:憩える場所の整備数(高沼用水路)	目標値:2.6km (平成28年度(2016年度))	「しあわせ倍増プラン2013」との整合を図るため。	平成26年版～ (H25年度(2013年度)実績)
				目標値:2.6km (平成28年度(2016年度))	目標値:3.05km (平成28年度(2016年度))	「総合振興計画後期基本計画実施計画」との整合を図るため。	平成28年版～ (H27年度(2015年度)実績)
				目標値:3.05km (平成28年度(2016年度))	目標値:4.0km (平成30年度(2018年度))	「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため。	平成30年版～ (H29年度(2017年度)実績)
				目標値:4.0km (平成30年度(2018年度))	目標値:5.0km (令和2年度(2020年度))	「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」との整合を図るため。	令和2年版～ (令和元年度 (2019年度)実績)
※14	2-3	景観の保全	-	指標:優れた都市景観に関する啓発のための表彰	削除	景観表彰が平成22年度(2010年度)で事業休止となったため、指標から除外した。	平成24年版～ (H23年度(2011年度)実績)
※15	2-3	景観の保全	81	目標値:10 (平成32年度(2020年度))	目標値:12 (令和2年度(2020年度))	「総合振興計画後期基本計画後期実施計画」と整合を図るため。	平成30年版～ (H29年度(2017年度)実績)
※16	2-3	景観の保全	-	指標:耕地面積	削除	平成26年(2014年)3月の農業振興ビジョン改訂に伴い、耕地面積の目標設定が削除されたため。	平成27年版～ (H26年度(2014年度)実績)
※17	2-4	自然とのふれあいの確保	93	全小中学校 (小学校103、中学校57) (平成25年度(2013年度))	全小中学校 (小学校103、中学校57) (平成29年度(2017年度)) ※学校教育ファームは、全市立小・中学校で継続実施	「総合振興計画後期基本計画実施計画」と整合を図るため。	H27年度版～ (H26年度(2014年度)実績)
				目標年度: 平成29年度(2017年度)	目標年度: 平成30年度(2018年度)	「総合振興計画後期基本計画実施計画」と整合を図るため。	令和元年版～ (H30年度(2018年度)実績)
				全小中学校 (小学校103、中学校57) (平成30年度(2017年度))	全小中学校 (小学校104、中学校58、中等教育学校1) (令和元年度(2019年度))	令和元年度から小・中・中等教育学校が1校ずつ新設されたため。	令和2年版～ (令和元年度 (2019年度)実績)

	施策	指標	頁	見直し前	見直し後	理由	対応年度
				※学校教育ファームは、全市立小・中学校で継続実施	※学校教育ファームは、全市立小・中等教育学校で継続実施		
※18	2-4	自然とのふれあいの確保	市民農園の区画数	94 指標：市民農園の開設数 目標値：80箇所 (平成25年度(2013年度))	指標：市民農園の区画数 目標値：2,700区画 (令和2年度(2020年度))	平成26年(2014年)3月の「さいたま市農業振興ビジョン」改訂に伴い、指標(数値目標)を市民農園開設数から市民農園利用区画数に変更した。	平成27年版～ (H26年度(2014年度)実績)
※19	3-1	地球温暖化対策の推進	温室効果ガス1人当たり排出量	98 目標値： 3.86t-CO ₂ /人 (平成26年度(2014年度))	目標値： 3.19t-CO ₂ /人 (令和2年度(2020年度))	平成25年度(2013年度)推計から地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づく集計に移行したため。	平成28年版～ (H27年度(2015年度)実績)
				指標値： H21年度実績 4.12 H22年度実績 4.16 H23年度実績 4.37 H24年度実績 4.67 H25年度実績 4.83 (単位:t-CO ₂ /人) 目標値： 3.19t-CO ₂ /人 (平成32年度(2020年度))	指標値： H21年度実績 4.07 H22年度実績 4.05 H23年度実績 4.30 H24年度実績 4.50 H25年度実績 4.53 (単位:t-CO ₂ /人) 目標値： 3.13t-CO ₂ /人 (令和2年度(2020年度))		
※20	3-1	地球温暖化対策の推進	温室効果ガス総排出量	98 目標値： 485.3t-CO ₂ (平成26年度(2014年度))	目標値： 406.5t-CO ₂ (令和2年度(2020年度))	平成25年度(2013年度)推計から地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づく集計に移行したため。	平成28年版～ (H27年度(2015年度)実績)
				指標値： H21年度実績 504.5 H22年度実績 512.9 H23年度実績 541.4 H24年度実績 581.1 H25年度実績 605.6 (単位:t-CO ₂) 目標値： 406.5t-CO ₂ (平成32年度(2020年度))	指標値： H21年度実績 498.6 H22年度実績 499.5 H23年度実績 533.0 H24年度実績 559.7 H25年度実績 568.3 (単位:t-CO ₂) 目標値： 399.4t-CO ₂ (令和2年度(2020年度))		
※21	3-1	地球温暖化対策の推進	環境負荷低減計画提出者数	106 -	指標：環境負荷低減計画提出者数 目標値：1,400件 (令和2年度(2020年度))	新規個別施策の追加に伴い指標を追加した。 本計画は、市内の一定規模以上の事業所について、温室効果ガス削減計画の作成と提出を義務付けるものである。また、提出義務の対象外となっている中小事業所にも計画の提出を呼びかけ、事業活動の省エネ化を促していくことから、計画の提出者数を指標とした。 目標値は、「さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」との整合を図り、1,400件(累計)とした。	平成25年版～ (H24年度(2012年度)実績)
				目標値：1,400件 (平成32年度(2020年度))	目標値：1,427件 (令和2年度(2020年度))		
※22	3-1	地球温暖化対策の推進	(仮称)さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定状況	-	削除	平成25年(2013年)3月に「さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定済みであるため、指標から除外した。	平成26年版～ (H25年度(2013年度)実績)

施策		指標	頁	見直し前	見直し後	理由	対応年度	
※23	3-1	地球温暖化対策の推進	市内次世代自動車登録台数	115	目標値:12,000台 (平成24年度(2012年度))	目標値:87,000台 (令和2年度(2020年度))	目標年度経過により新たな目標値を設定したため。(「さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」より)	平成26年版～ (H25年度(2013年度)実績)
※24	4-2	水循環の保全	公共下水道普及率	139	目標値:90% (平成24年度(2012年度))	目標値:92.7% (平成29年度(2017年度))	平成26年(2014年)4月に「さいたま市下水道事業実施計画(計画期間:平成26～29年度)」を策定し、平成29年度末(2017年度末)までの整備目標を下水道普及率92.7%としたため。	平成26年版～ (H25年度(2013年度)実績)
					目標値:92.7% (平成29年度(2017年度))	目標値:94.0% (令和2年度(2020年度))		
※25	4-2	水循環の保全	公共施設(小学校)への雨水貯留タンク設置数	-	指標:公共施設(小学校)への雨水貯留タンク設置数	削除	目標の達成、目標年度の経過のため、指標を削除した。	令和元年版～ (H30年度(2018年度)実績)
※26	4-5	化学物質対策の推進	環境コミュニケーションの実施回数	159	目標値:10 (平成25年度(2013年度))	目標値:12 (平成26年度(2014年度))	年2回開催の目標のため、平成26年度(2014年度)の目標値は累計12回となるため。	平成27年版～ (H26年度(2014年度)実績)
					目標値:12 (平成26年度(2014年度))	目標値:18 (平成29年度(2017年度))	年2回開催の目標のため、平成29年度(2017年度)の目標値は累計18回となるため。	平成28年版～ (H27年度(2015年度)実績)
					目標値:18 (平成29年度(2017年度))	目標値:27 (令和2年度(2020年度))	平成30年度(2018年度)より年3回開催に変更のため、令和2年度(2020年度)の目標値は累計27回となるため。	令和元年版～ (H30年度(2018年度)実績)
※27	5-1	一般廃棄物対策の推進	市民1人1日当たりのごみ総排出量	160	目標値:780g (平成29年度(2017年度))	目標値:897g (平成28年度(2016年度))	「第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」において同指標を目標値から除外したことにより、見直しを行った。	平成24年版～ (H23年度(2011年度)実績)
					目標値:897g (平成28年度(2016年度))	目標値:867g (令和2年度(2020年度))	「第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標年度及び目標値の見直しを行った。	平成30年版～ (H29年度(2017年度)実績)
※28	5-1	一般廃棄物対策の推進	一般廃棄物再生利用率	168	目標値:34% (平成29年度(2017年度))	目標値:25.8% (平成28年度(2016年度))	「第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標値の見直しを行った。	平成27年版～ (H26年度(2014年度)実績)
					目標値:25.8% (平成28年度(2016年度))	目標値:25.1% (令和2年度(2020年度))	「第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標年度の見直しを行った。	平成30年版～ (H29年度(2017年度)実績)
※29	5-1	一般廃棄物対策の推進	一般廃棄物最終処分比率	171	目標値:6% (平成29年度(2017年度))	目標値:6% (平成28年度(2016年度))	「第3次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標値の見直しを行った。	平成24年版～ (H23年度(2011年度)実績)
					目標値:6% (平成28年度(2016年度))	目標値:3.5% (令和2年度(2020年度))	「第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画」との整合を図り、目標年度及び目標値の見直しを行った。	平成30年版～ (H29年度(2017年度)実績)
※30	5-2	産業廃棄物対策の推進	産業廃棄物最終処分率	177	指標:産業廃棄物排出量 目標値:1,438千t/年 (平成27年度(2015年度)実績)	指標:産業廃棄物最終処分率 目標値:1.2% (平成30年度(2018年度)実績)	平成27年度(2015年度)に改訂した「さいたま市産業廃棄物処理指導計画」の内容と整合させるため	平成29年版～ (H25年度(2013年度)実績)
					指標:産業廃棄物最終処分率 目標値:10千t/年 (平成27年度(2015年度)実績)			
					目標年度: 平成30年度(2018年度)(実績)			

2 市民アンケート結果

本市では、「さいたま市環境基本計画（改訂版）」の基本目標の実現状況について、指標及び数値目標による定量的評価と市民の意識調査による定性的評価を行うこととしています。そこで市民の環境施策に対する評価や関心の状況等を調査するため、平成23年（2011年）から毎年、環境に関するWEBアンケートを市民1,000人を対象に実施しています。以下は、アンケート結果の経年変化を示したものです。なお、アンケート対象者の居住区の割合は、市の実態に即しています。

また、Q1とQ3については、回答割合を「順調である・とても関心がある」＝5点、「まあまあ順調である・やや関心がある」＝4点、「どちらとも言えない」＝3点、「あまり進んでいない・あまり関心がない」＝2点、「進んでいない・全く関心がない」＝1点として平均を求め、各項目の度合いを得点化し、Q1では「順調度」、Q3では「関心度」として算出しました。

Q1. 基本目標1から5の進捗状況について、どうお考えですか。

令和3年（2021年）は、令和2年（2020年）に比べ、5つすべての目標について同等の結果となりました。

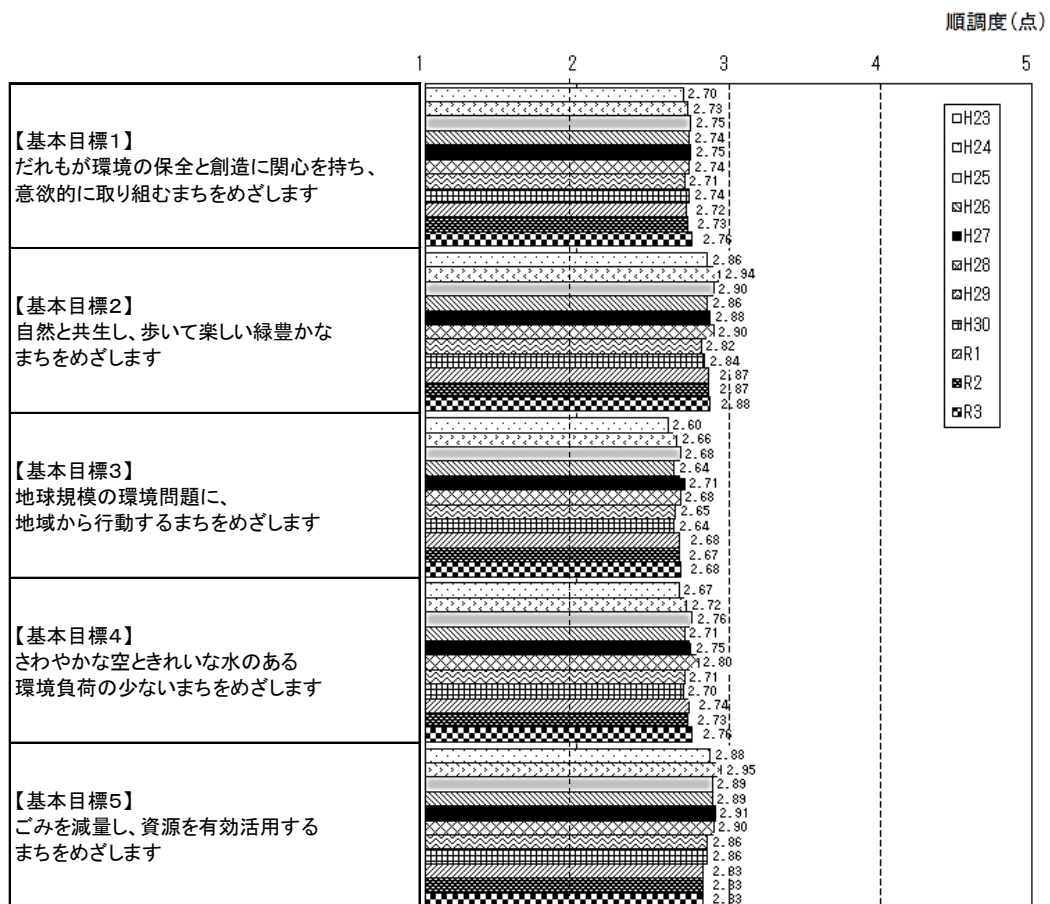


図3-1基本目標1から5の進捗状況についてのアンケート結果の経年変化

Q2. Q1の基本目標の進捗状況を踏まえ、さいたま市がめざす「望ましい環境像」の実現に、順調に近づいていると思いますか。

令和3年（2021年）は、令和2年（2020年）に比べ、「順調である」と「まあまあ順調である」の合計が0.3ポイント減少し、「あまり近づいていない」と「近づいていない」の合計が1.9ポイント増加しました。

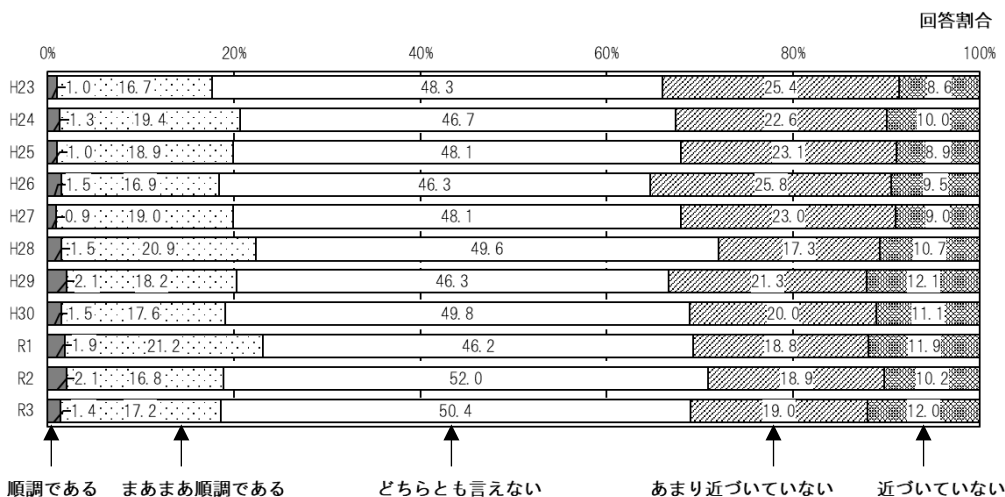


図3-2 「望ましい環境像」の実現に近づいているかについてのアンケート結果の経年変化

Q3. 基本目標は、いくつかの施策を柱に展開しています。それぞれの施策への関心度について、どうお考えですか。

令和3年（2021年）は、令和2年（2020年）に比べ、ほぼ同等の結果ですが、全体的な傾向として、平成23年（2011年）の調査開始以来、市民の施策への関心度は減少しています。

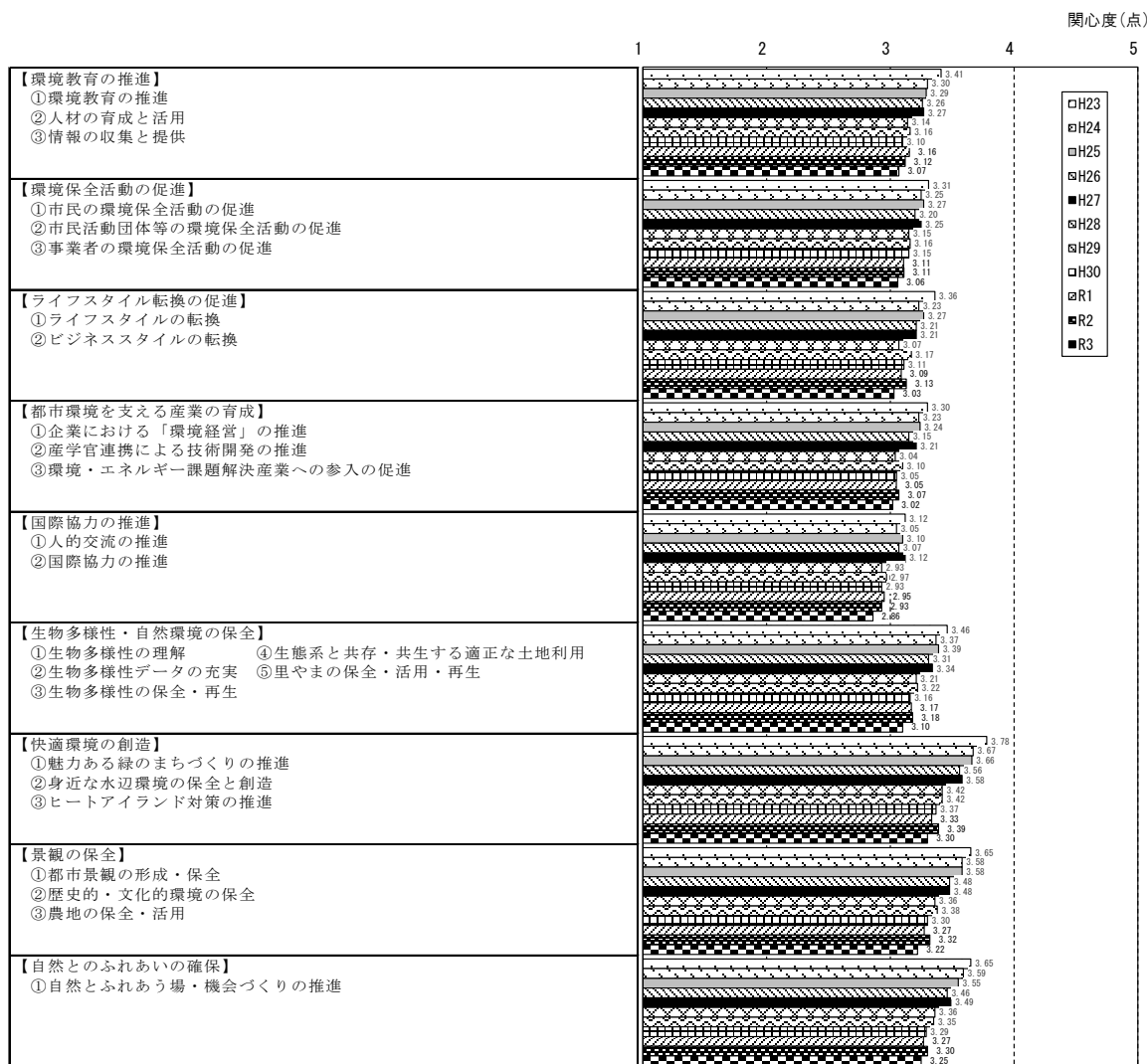


図3-3 それぞれの施策への関心度についてのアンケート結果の経年変化(その1)

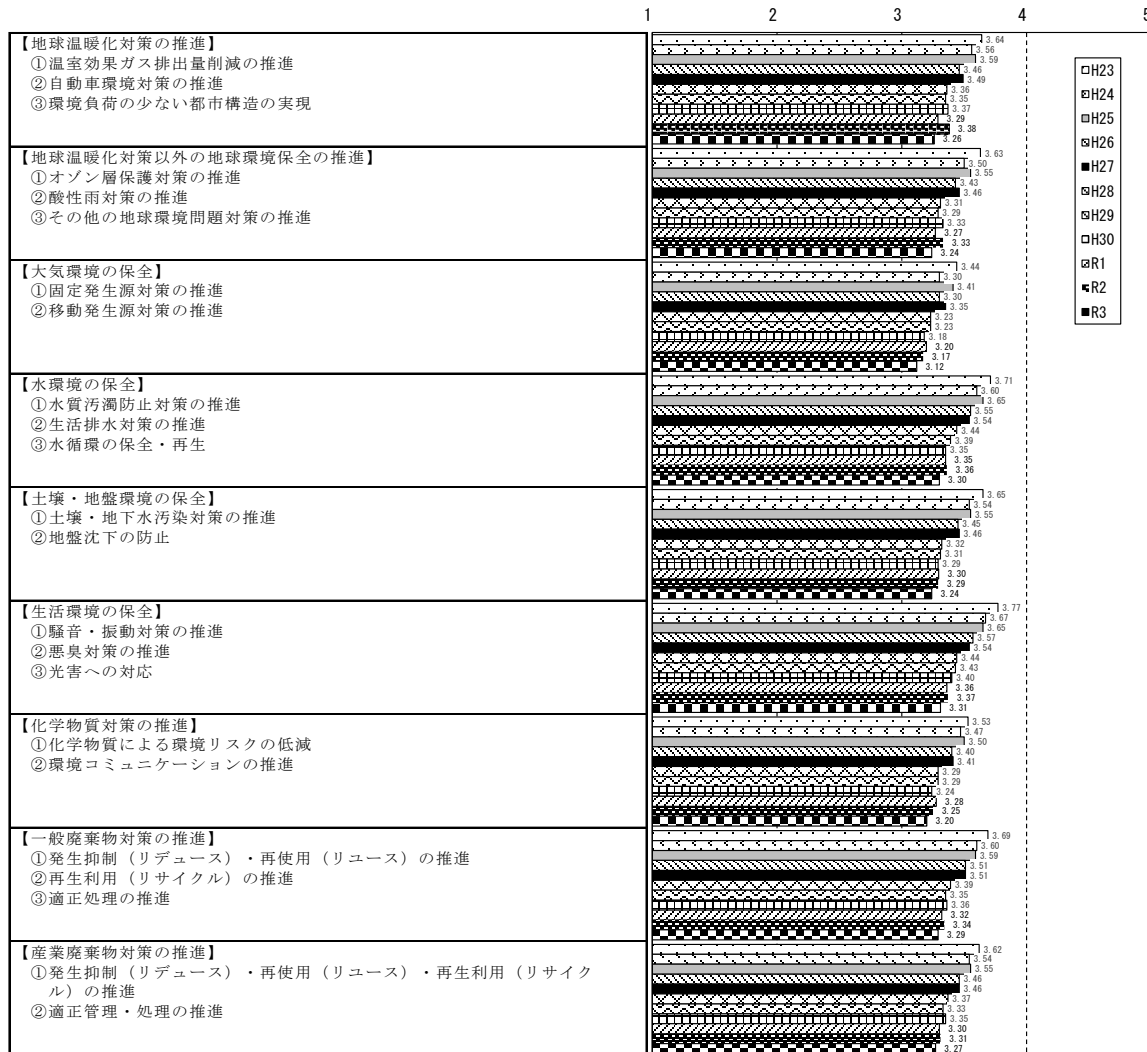


図3-4 それぞれの施策への関心度についてのアンケート結果の経年変化(その2)

Q4. 「生物多様性」という言葉の意味を知っていますか。

令和3年(2021年)は、令和2年(2020年)に比べ、「言葉の意味を知っている」が2.2ポイント増加し、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は変化がなく、「聞いたこともない」が2.2ポイント減少する結果となりました。

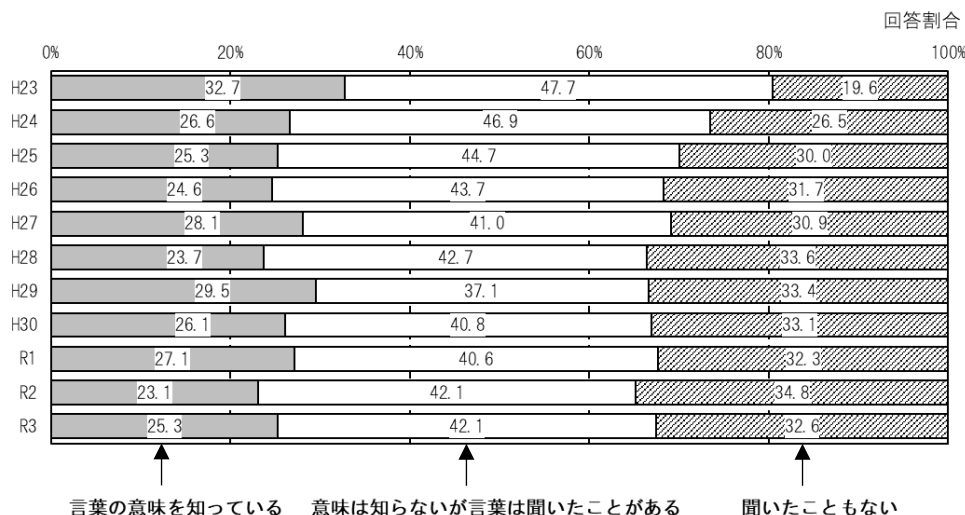


図3-5 「生物多様性」の言葉の認知度についてのアンケート結果の経年変化

第2章 総合評価及び今後の取組

基本目標1「だれもが環境の保全と創造に関心を持ち、意欲的に取り組むまちをめざします」の評価結果

基本目標1に含まれる指標10個のうち、3個が前年度より向上し、3個が年度目標値を達成しました。なお、4個の指標（さいたま市環境フォーラム参加者数（再掲含む）、エコライフDAY参加人数、環境関連施設における海外視察受入数）については、新型コロナウイルスの感染防止対応のため他年度と単純比較できないことから、評価対象から外しています。また、市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

計画期間における対前年度比および対年度目標値比の評価の推移は、いずれも概ね「○」の比率が高く、計画期間を通して前年度より良化を図り、年度目標値の達成に向け取組を推進した結果が反映されているものと考えます。

「さいたまこどもエコ検定」、「環境局ホームページアクセス数」は増加傾向であり、環境教育の取組は進んでいると考えられますが、「環境保全・標語ポスター作品コンクール事業」、「さいたま市環境フォーラム」の指標で見られるように、アフターコロナの新しい生活様式を踏まえ、市民が安心して参加できる新たな環境教育・啓発のあり方や、イベントや環境保全活動の実施方法等について検討が必要です。

一方で、「環境マネジメント認証取得事業所件数」は計画期間を通して減少傾向にあり、認証取得に係るコスト面やシステム運用に伴う事務量増大の面などの影響から、認証を取りやめる傾向が見受けられます。今後は、環境マネジメントシステムの認証取得など、企業形態や状況にあわせた手法を活用し、企業における環境経営の推進について普及・啓発を図るとともに、SDGsに取り組む企業を認証するなど、持続可能なまちの実現に寄与する企業を応援する仕組み等の取組の拡充を図ります。さらに、環境保全活動、環境教育等において事業者等との連携を深めるなど、市民、事業者、学校、行政などのパートナーシップを強化することで、すべての主体が手を取り合い、環境の保全と創造に意欲的に取り組むまちの実現を目指します。

表 3-7 指標による評価結果(基本目標1)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	3	2	1
対年度目標値比	3	3	0

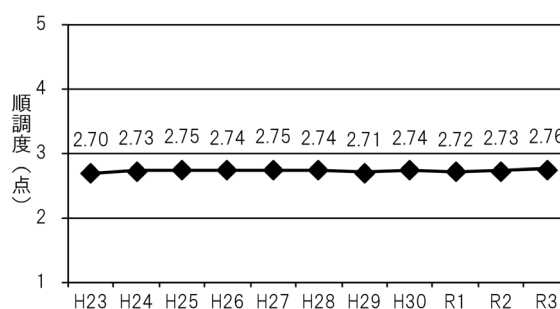


図 3-6 市民アンケートによる評価結果(基本目標1)

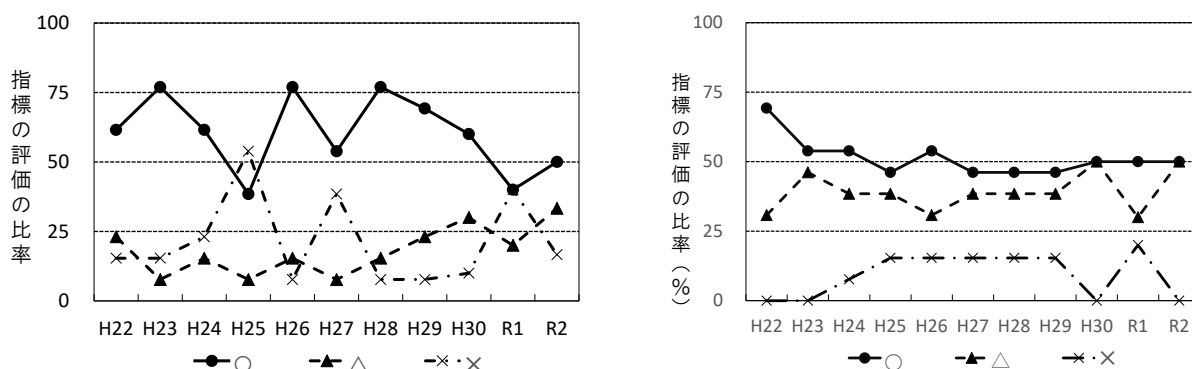


図 3-7 基本目標1における指標の評価の比率の経年変化(左:対前年度比、右:対年度目標値比)

表3-8 計画期間における基本目標1の指標の達成状況

施策	指標 (単位)	H21年度 (基準値)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
1 環境教育の推進	子どもエコクラブ登録団体数(団体)	22	19	22	11	7	10	13	12	10				75
	対前年度比		×	○	×	×	○	○	△	×				(R2年度)
	対年度目標値比		△	△	×	×	×	×	×	×				
	子どもエコクラブ登録会員数(人)	1,810	1,726	1,828	1,500	786	829	1,018	956	1,196				3,300
	対前年度比		△	○	×	×	○	○	△	○				(R2年度)
	対年度目標値比		△	△	△	×	×	×	×	×				
	環境保全標語・ポスター作品コンクール応募者数(人)	1,153	1,809	2,426	2,721	1,504	2,645	1,500	2,461	2,474	2,048	2,475	1,453	2,500
	対前年度比		○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	×	(R2年度)
	対年度目標値比		○	○	○	△	○	△	○	○	△	○	△	
	環境教育拠点施設数(施設)	8	8	11	14	17	17	18	19	20				20
	対前年度比		△	○	○	○	△	○	○	○				(H29年度)
	対年度目標値比		△	○	○	○	○	○	○	○				
	さいたま市環境フォーラム参加者数(人)	1,050	1,406	885	1,301	800	1,162	1,045	1,071	1,230	1,131	359	中止	2,000
	対前年度比		○	×	○	×	○	×	○	○	△	×	-	(R2年度)
対年度目標値比		○	△	△	△	△	△	△	△	△	×	-		
さいたま子どもエコ検定実施児童数							3,604	4,904	4,813	5,452	5,079	5,882	5,500	
対前年度比							基準年度	○	△	○	△	○	(R2年度)	
対年度目標値比							基準年度	○	○	○	△	○		
環境局ホームページアクセス数(件/日)	1,991	2,987	3,879	3,846	2,387	2,679	3,533	3,924	4,836	5,632	6,933	9,432	6,300	
対前年度比		○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)	
対年度目標値比		○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○		
2 環境保全活動の促進	環境保全活動団体数(団体)	94	99	90	97	99	101	101	103	98	97	96	93	増加
	対前年度比		○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	(R2年度)
	対年度目標値比		○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	
	さいたま市環境フォーラム参加者数(人)【再掲】	1,050	1,406	885	1,301	800	1,162	1,045	1,071	1,230	1,131	359	中止	2,000
対前年度比		○	×	○	×	○	×	○	○	△	×	-	(R2年度)	
対年度目標値比		○	△	△	△	△	△	△	△	△	×	-		
3 ライフスタイル転換の促進	エコライフDAY参加人数(人)	36,291	40,611	40,841	37,268	40,956	43,079	47,701	39,496	36,111	40,876	25,110	15,547	50,000
	対前年度比		○	○	△	○	○	○	×	△	○	×	-	(R2年度)
対年度目標値比		○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	△	-	
4 都市環境を支える産業の育成	産学連携による環境技術に関する共同研究開発支援実績(累計)(件)	1	1	2	3	5	7	11	13	14	14	14	14	10
	対前年度比		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)
	対年度目標値比		△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
	環境マネジメントシステム認証取得事業所件数(公共施設を含む)(件)	225	233	258	249	245	231	217	224	214	202	194	185	300
対前年度比		○	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△	(R2年度)	
対年度目標値比		○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△		
5 国際協力の推進	JICA研修生等受入数(水道局)(人)	11	12	26	30	22	32	14						継続
	対前年度比		○	○	○	×	○	×						(H27年度)
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○						
	環境関連施設における海外視察受入数(人)	63	30	98	61	97	50	41	56	87	233	23	中止	継続
対前年度比		×	○	×	○	×	×	○	○	○	×	-	(R2年度)	
対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-		

注) 網掛けした指標は、指標の見直し等を行ったため達成状況の評価を中断しています。

基本目標2「自然と共生し、歩いて楽しい緑豊かなまちをめざします」の評価結果

基本目標2に含まれる指標11個のうち、7個が前年度より向上し、6個が年度目標値を達成しました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

計画期間における対前年度比および対年度目標値比の評価の推移は、いずれも概ね「○」の比率が高く、計画期間を通して前年度より良化を図り、年度目標値の達成に向け取組を推進した結果が反映されているものと考えます。

「憩える場所の整備延長（高沼用水路）」は、市中心部に残された歴史的な緑地空間の保全を求められているため、地元住民と協議しながら整備を進め、目標値を達成しました。その他、「身近な公園整備数」、「景観重要建造物・景観重要樹木の指定」、「学校教育ファームの実施校数」、「市民農園の区画数」などについて目標を達成し、快適空間の創出や良好な景観の保全、市民の農作業体験の支援などに関して推進してきました。

一方、生物多様性の認知状況（言葉の認知度）については、年度によって多少の増減はあるものの、令和2年度（2020年度）は最も低い数値となり、計画期間を通して年度目標値を達成していません。環境学習や各種事業、イベント等において「生物多様性」という言葉の意味や理念（基本的な考え方）についての解説を行い、一人ひとりが生物多様性を自分自身の身近な問題として捉え、理解し、行動に結びつける場や機会を増やす必要があります。

また、担保性のある緑の面積、自然緑地等の指定面積、オープン型緑地の指定面積についても、経年変化は横ばいであり、目標値を達成していません。緑地の担保性の向上には公有地化が最適な手法ですが、財源等の確保が難しい状況にあるため、土地所有者、地元住民の協力を得ながら既存制度を活用するほか、新たな制度の創設により、市民、事業者、学校、行政など多様な主体による活動の推進を図っていくことが必要となります。

生物多様性の保全にあたっては、多くの財源を必要としますが施策による効果がわかり難く、目標の達成に至りませんでした。今後は、生物多様性に関する情報提供やふれあう機会の創出を図ることで市民の理解を促すとともに、市民協働により「里やまなどの自然環境の保全・活用・再生」と「都市の緑と身近な水辺環境の保全・創造」を推進し、自然と共生しながら多様ないのちが息づくまちの実現を目指します。

表 3-9 指標による評価結果(基本目標 2)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	7	2	2
対年度目標値比	6	2	3

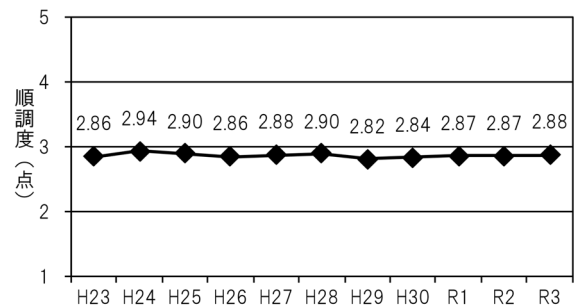


図 3-8 市民アンケートによる評価結果(基本目標 2)

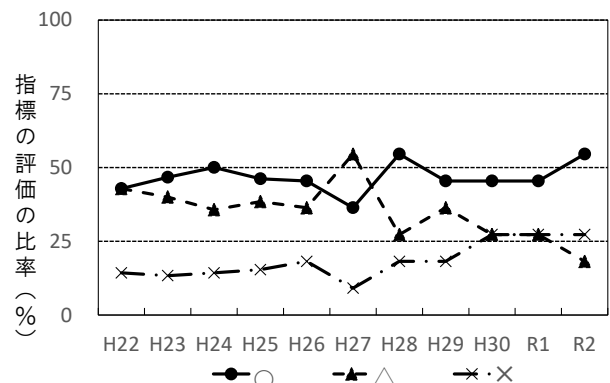
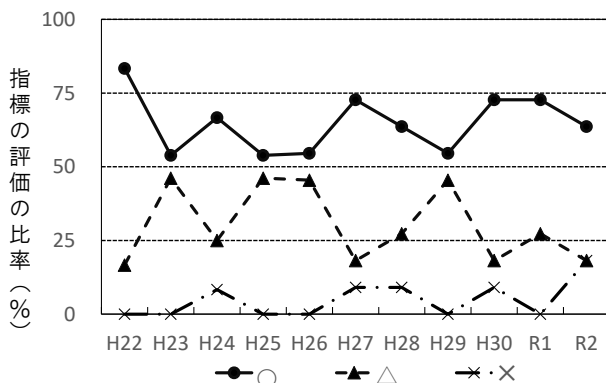


図 3-9 基本目標 2 における指標の評価の比率の経年変化(左:対前年度比、右:対年度目標値比)

表3-10 計画期間における基本目標2の指標の達成状況

施策	指標 (単位)	H21年度 (基準値)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値	
1 生物多 様性・自 然環境の 保全	生物多様性の認識状況 (言葉の認知度)(%)	-	35	33	27	25	25	28	24	30	26	27	23	70	
	対前年度比		基準年度	△	×	△	△	○	×	○	×	○	×	(R2年度)	
	対年度目標値比		基準年度	△	△	△	△	△	×	△	×	×	×		
	市民参加型 生きもの調 査の仕組み の構築・稼 働	無	無	無	無	有								構築・稼働	
	対前年度比		-	-	-	○								(H25年度)	
	対年度目標値比		-	-	-	-									
	特定外来生 物の捕獲数 (頭)	98	113	225										100	
	対前年度比		○	○										(H24年度)	
	対年度目標値比		○	○											
	特定外来生 物(アライグ マ等)被害に 関する相談 への対応率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(H29年度)
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	市域におけ る担保性のある緑の面積 (ha)	5,888	6,088	6,080	6,096	6,105	6,110	6,113	6,139	6,169	6,169	6,045	6,045	7,620	
	対前年度比		○	△	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	(R2年度)
対年度目標値比		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
2 快適環 境の創造	身近な公園 整備率(%)	81.7	82.5	83.1	83.9	84.4	84.1							88.2	
	対前年度比		○	○	○	○	△							(R2年度)	
	対年度目標値比		○	○	○	○	△								
	身近な公園 整備数(公 園)	789	796	808	821	832	839	845	866	882	887	894	904	903	
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)	
	対年度目標値比		△	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○		
	自然緑地等 の指定面積 (ha)	84.18	82.11	80.50	78.85	77.93	75.75	74.61	73.17	72.87	73.45	71.84	70.50	180	
	対前年度比		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	(R2年度)
	対年度目標値比		△	△	△	△	△	△	△	△	×	×	×	×	
	屋上・壁面 等緑化を施 した公共施 設数(ヶ所)	28	29	33	36	39	39	39	40	40	43	45	47	50	
対前年度比		○	○	○	○	△	△	○	△	○	○	○	(R2年度)		
対年度目標値比		△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△			
憩える場所 の整備数(高 沼用水路)(ヶ所)	0	0	0	0									2		
対前年度比		-	-	-									(H24年度)		
対年度目標値比		×	×	×											
憩える場所 の整備延長 (高沼用水路) (km)	0	0	0	0	0.35	0.95	1.58	3.05	3.05	3.33	4.00	5.03	5.0		
対前年度比		-	-	-	-	○	○	○	△	○	○	○	(R2年度)		
対年度目標値比		×	×	×	×	×	△	○	△	△	△	○			
3 景観の保 全	優れた都市 景観に関する啓発のための表彰 (点)	121	154											230	
	対前年度比		-											(R2年度)	
	対年度目標値比		-												
	景観重要建 造物・景観 重要樹木の 指定(件数)	0	5	5	5	5	8	9	9	9	10	12	13	12	
対前年度比		○	△	△	△	○	○	△	△	○	○	○	(R2年度)		
対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
耕地面積 (ha)	3,840	3,810	3,760	3,730	3,640								3,844		
対前年度比		△	△	△	△								(H25年度)		
対年度目標値比		△	△	△	△										
4 自然との ふれあいの 確保	学校教育 ファームの 実施校数 (校)	35	82	154	160	160	160	160	160	160	160	162	163	全小中学校	
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)	
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	市民農園の 開設数(箇 所)	43	51	63	74	74								80	
	対前年度比		○	○	○	△								(H25年度)	
	対年度目標値比		△	○	○	△									
	市民農園の 区画数(区 画)	-					2,900	2,698	2,889	2,897	2,793	2,730	2,849	2,600(H29) 2,700(R2)	
対前年度比						基準年度	○	○	○	○	○	○			
対年度目標値比						基準年度	○	○	○	○	○	○			
オープン型 緑地の指定 面積(ha)	7.6	7.8	7.8	8.1	8.0	7.6	6.5	6.3	6.3	6.7	6.4	5.2	37		
対前年度比		○	△	○	△	△	×	△	△	○	△	×	(R2年度)		
対年度目標値比		△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×			

注) 網掛けした指標は、指標の見直し等を行ったため達成状況の評価を中断しています。

基本目標3「地球規模の環境問題に、地域から行動するまちをめざします」の評価結果

基本目標3に含まれる指標5個のうち、4個が前年度より向上し、2個が年度目標値を達成しました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

計画期間における対前年度比および対年度目標値比の評価の推移は、対前年度比が概ね「○」の比率が高く推移してきたことに対し、対年度目標値比は「△」の比率が高く推移しています。しかしながら平成28年度（2016年度）以降は対前年度比が全て「○」で推移していることから、計画期間を通して年度目標値の達成に向け、取組の良化を図りながら推進した結果が反映されているものと考えます。

温室効果ガス1人当たりの排出量及び温室効果ガス総排出量については、平成28年度（2016年度）（平成26年度（2014年度）実績）以降、減少傾向が続いています。温室効果ガス排出量のさらなる削減のため、全排出量に占める割合の大きい業務部門及び家庭部門を中心として、二酸化炭素排出量削減に向けたさらなる取組が必要です。業務部門については、事業者への環境負荷低減計画制度を通じた環境保全活動の促進に加え、電力リバースオークションや機器導入に係る補助事業等、再生可能エネルギーの導入促進となる事業の実施が必要です。家庭部門については、さいたま市「スマートホーム推進・創って減らす」機器設置補助金等の補助事業を通じた再生可能エネルギー等の普及、市民1人ひとりがそれぞれのライフスタイルにあった省エネ行動の実践を促進するための意識啓発や情報提供の継続が必要です。

本市は令和2年（2020年）7月にゼロカーボンシティを表明しており、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。脱炭素社会の実現に向けた自動車環境対策として、「E-KIZUNA Project（イー・キズナ プロジェクト）」による充電セーフティネットの構築や次世代自動車普及促進のための補助制度、地域密着型の啓発活動（EV教室等）、COOL CHOICE普及啓発活動などを行っています。これらの取組を推進するため、国内外の都市が互いに連携し、様々な環境施策を発信・共有する「E-KIZUNAグローバルサミット」の開催を令和4年度（2022年度）に予定しています。これまで築き上げてきた広域的な都市間ネットワークや、企業・団体とのネットワークをさらに発展させ、地球温暖化の問題に地域から行動し、脱炭素社会の実現を目指します。

表 3-11 指標による評価結果(基本目標 3)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	4	0	0
対年度目標値比	2	3	0

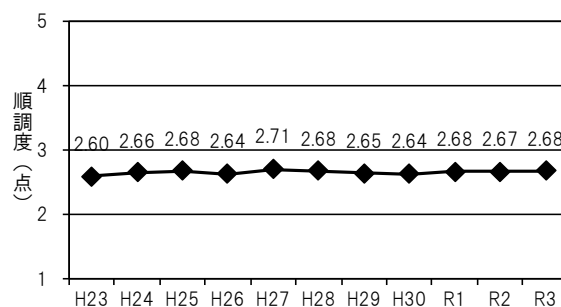


図 3-10 市民アンケートによる評価結果(基本目標 3)

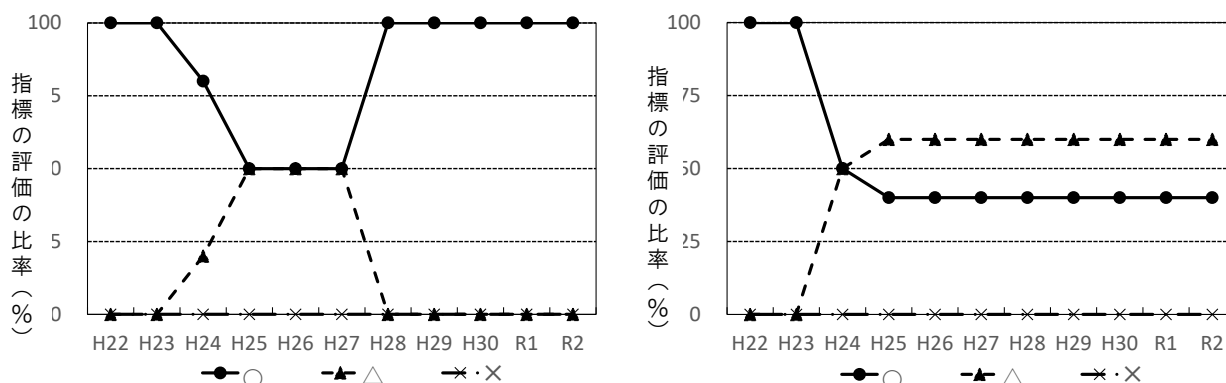


図 3-11 基本目標 3 における指標の評価の比率の経年変化(左:対前年度比、右:対年度目標値比)

表3-12 計画期間における基本目標3の指標の達成状況

施策	指標 (単位)	H21年度 (基準値)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値	
基本目標3	1 地球温暖化対策の推進	温室効果ガス1人あたり排出量(t-CO2/人) ※実績は2年度前の数値	-		4.07 (H21年度実績)	4.05 (H22年度実績)	4.30 (H23年度実績)	450 (H24年度実績)	453 (H25年度実績)	4.26 (H26年度実績)	4.20 (H27年度実績)	4.05 (H28年度実績)	3.91 (H29年度実績)	3.86 (H30年度実績)	3.13
		対前年度比		基準年度	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	(R2年度)
		対年度目標値比		基準年度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		温室効果ガス総排出量(万t-CO2) ※実績は2年度前の数値	-		498.6 (H21年度実績)	499.5 (H22年度実績)	533.0 (H23年度実績)	559.7 (H24年度実績)	568.3 (H25年度実績)	536.9 (H26年度実績)	533.7 (H27年度実績)	519.5 (H28年度実績)	505.8 (H29年度実績)	502.1 (H30年度実績)	399.4
		対前年度比		基準年度	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	(R2年度)
		対年度目標値比		基準年度	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		環境負荷低減計画提出者(所)数(累計)	0(未実施)	100	208	313	419	522	618	724	879	1,047	1,216	1,393	1,427
		対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)
		対年度目標値比		○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		(仮称)さいたま市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定状況	無	無	無	策定									策定
		対前年度比		-	-	○									(H24年度)
		対年度目標値比		-	-	○									
	次世代自動車登録台数(台)	9,875	14,014	20,080	28,068	37,210	45,122	52,955	61,751	70,387	78,396	85,706	92,269	87,000	
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)	
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
2 地球温暖化対策以外の地球環境保全の推進	カーエアコンのフロン類回収量(GFC)(kg)	-	926.1	518.8	428.0	537.7	413.3	245.5	130.9	84.0	119.4	168.7	181.6	適正処理の指導継続	
	対前年度比		基準年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	対年度目標値比		基準年度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(R2年度)	

注) 網掛けした指標は、指標の見直し等を行ったため達成状況の評価を中断しています。

基本目標4 「さわやかな空ときれいな水のある環境負荷の少ないまちをめざします」の評価結果

基本目標4に含まれる指標15個のうち、13個が前年度より向上し、12個が年度目標値を達成しました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

計画期間における対前年度比および対年度目標値比の評価の推移は、いずれもすべての年度で「○」の比率が高く、計画期間を通して前年度より良化を図り、年度目標値の達成に向け取組を推進した結果が反映されているものと考えます。

大気質については、ほとんどの項目で環境基準を満たしていますが、前年度同様に光化学オキシダントが全局で環境基準を超過しました。光化学オキシダントの発生は広域化しているため、対応策を国、県等の関係機関と情報共有し、関連自治体と共同して原因となる揮発性有機化合物（VOC）の排出量の削減に努める必要があります。

水質に関連し「水質汚濁に係る環境基準達成率」、「公共下水道普及率」の目標は達成しましたが、今後も水質の改善のために、公共下水道未整備地区の工場・事業場への監視や指導、公共下水道の早期整備、合併処理浄化槽の普及促進、雑木林や屋敷林の保全などに取り組むとともに、市民、事業者、行政などのパートナーシップによる河川敷等のクリーン活動の実施、家庭において取り組む生活排水対策のより一層の推進なども必要です。その一方で、「水道使用量」については新型コロナウイルス感染拡大に伴い在宅時間が増えたことにより目標を達成しませんでした。今後、雑用水利用促進事業や水環境保全意識啓発事業を推進し、国、他自治体、民間企業等との連携やPRにより効果的・継続的に市域に働きかけていく必要があります。

道路交通騒音については、平成23年度（2011年度）以降、年度目標値を達成していないことから、定期的に自動車騒音、道路交通振動の状況を把握しながら道路構造や交通量等の変化への対応を図り、騒音・振動公害の防止に向け、道路の適正な維持管理や道路構造の見直し、低騒音舗装や防音壁等の整備を推進する必要があります。新幹線鉄道騒音については、全地点で環境基準を下回りましたが、今後も調査を継続して実施し、新幹線鉄道沿線の生活環境が保全されるよう監視する必要があります。

今後も、市民の健康、安全・安心な生活を支える大気環境、水環境の保全や、都市型公害への対応を図るため、これまで実施してきた各種調査を継続するとともに、環境法令の周知・啓発を図ることで、良好な環境を確保し、安全で誰もが暮らしやすい生活環境の実現を目指します。

表 3-13 指標による評価結果(基本目標 4)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	13	2	0
対年度目標値比	12	2	1

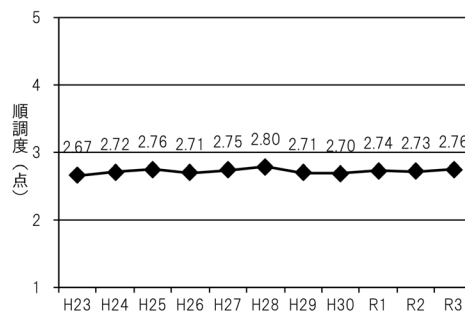


図 3-12 市民アンケートによる評価結果(基本目標 4)

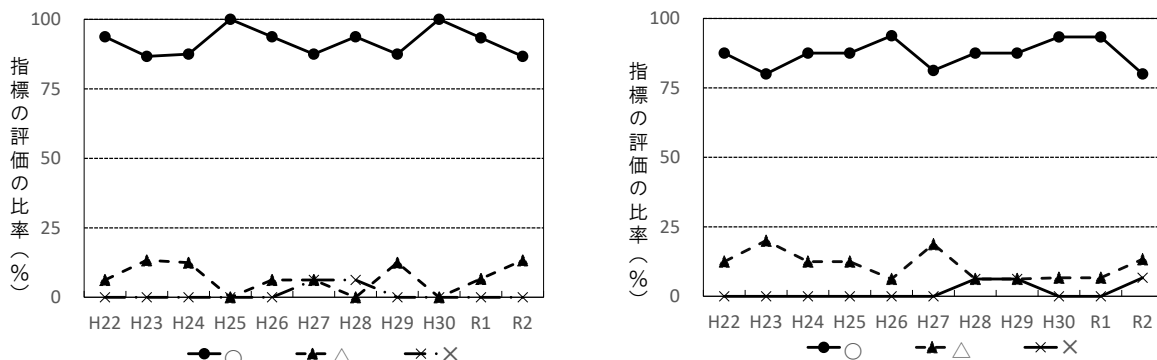


図 3-13 基本目標 4 における指標の評価の比率の経年変化(左:対前年度比、右:対年度目標値比)

表3-14 計画期間における基本目標4の指標の達成状況

施策	指標 (単位)	H21年度 (基準値)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
1 大気環境の保全	一般局における大気汚染に係る環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	有害大気汚染物質に係る環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	光化学オキシダントの原因物質の濃度(ppmC)	0.26	0.24	0.21	0.17	0.19	0.18	0.20	0.18	0.19	0.18	0.17	0.18	0.20
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	自排局における大気汚染に係る環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 水循環の保全	次世代自動車登録台数(台)【再掲】	9,875	14,014	20,080	28,068	37,210	45,122	52,955	61,751	70,387	78,396	85,706	92,269	87,000
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	水質汚濁に係る環境基準達成率(%)	74	83	84	80	83	96	96	87	87	91	96	96	85
	対前年度比		○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	公共下水道普及率(%)	86.6	87.9	89.0	90.0	90.9	91.5	92.0	92.5	92.9	93.2	93.6	94.0	94.0
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	公共施設(小学校)への雨水貯留タンク設置数(累計)(基)	3	4	5	17	29	54	74	84	104				104
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○				
	対年度目標値比		△	△	○	○	○	○	○	○				
水道使用量(市民1人1日あたり)(ℓ)	305	305	295	291	286	283	282	279	280	279	275	281	順次減少	
対前年度比		△	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△		
対年度目標値比		△	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×		
3 土壌・地盤環境の保全	単年度沈下量2cm以上の面積(m ²)	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	対前年度比		○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4 生活環境の保全	騒音・振動・悪臭に関する公害相談解決率(%)	98.3	99.3	97.9	98.1	98.7	99.0	98.3	99.4	99.6	99.8	99.8	99.4	100
	対前年度比		○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	△	
	対年度目標値比		○	△	△	△	○	△	○	○	○	○	△	
	道路交通騒音に係る環境基準達成率(%)	93.7	98.5	93.9	87.5	92.4	92.1	96.0	96.8	91.0	94.7	95.2	97.3	100
	対前年度比		○	△	△	○	△	○	○	△	○	○	○	
	対年度目標値比		○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	新幹線鉄道騒音に係る環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100	100	75	25	100	100	100	100	100
	対前年度比		○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	
対年度目標値比		○	○	○	○	○	△	×	○	○	○	○		
5 化学物質対策の推進	ダイオキシン類一般大気環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ダイオキシン類水質土壌環境基準達成率(%)	94.4	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境コミュニケーションの実施回数(累計)(回)	2	4	7	9	11	12	15	18	20	24	27	28	27	
対前年度比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
対年度目標値比		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

注) 網掛けした指標は、指標の見直し等を行ったため達成状況の評価を中断しています。

基本目標5 「ごみを減量し、資源を有効活用するまちをめざします」の評価結果

基本目標5に含まれる指標4個のうち、4個が前年度より向上し、3個が年度目標値を達成しました。市民アンケートによる進捗評価（順調度）は、前年と同等の評価となりました。

計画期間における対前年度比および対年度目標値比の評価の推移は、対前年度比が平成26年度（2014年度）以降は概ね「○」の比率が高く推移し、対年度目標値比は平成28年度（2016年度）以降、「○」の比率が高く推移しており、取組の効果が計画期間の後期に少しずつ表れてきたものと考えます。

市民1人1日当たりのごみ総排出量は、全体的にみると順調に減少を続け目標値を達成しました。しかし、家庭系ごみは増加しており、さらなるごみ減量を推進するため、「もえるごみ」に含まれがちな資源物（「その他の紙（雑がみ）」）の分別徹底、生ごみの水切り、食品ロス削減などの減量施策を推進する必要があります。

一般廃棄物の再生利用率については、計画期間を通して概ね横ばいであることから、今後も「その他の紙（雑がみ）」などの資源物の分別徹底、団体資源回収運動のさらなる推進を図り、資源化量を増加する必要があります。

また、最終処分比率については、平成27年度（2015年度）に稼働した桜環境センターでの処理により残渣の資源化が進み、目標値を達成しました。その一方で、市内最終処分場は残余容量が年々少なくなっており、本市の最終処分量のうち約半分を県外での処分に依存している状況のため、今後も最終処分する比率を低下させ、最終処分場の埋立容量を確保する必要があります。

現代の大量消費社会による資源の枯渇や不法投棄の問題、食品ロス、プラスチックごみなどの課題の解決のためには、分別の徹底など、3R（発生抑制、再使用、再生利用）を推進し、環境負荷の少ない循環型社会を構築することが必要です。今後も引き続き、市民、事業者、行政等が自発的に行動するよう意識の醸成を図り、ともに取り組み参加する、循環型都市の創造を目指します。

表 3-15 指標による評価結果(基本目標 5)

	評価(個)		
	○	△	×
対前年度比	4	0	0
対年度目標値比	3	1	0

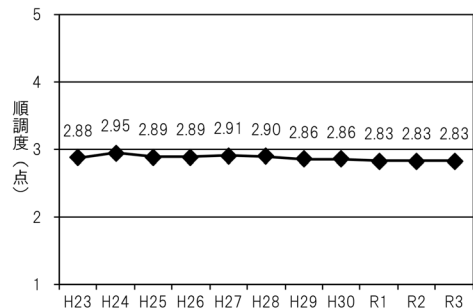


図 3-14 市民アンケートによる評価結果(基本目標 5)

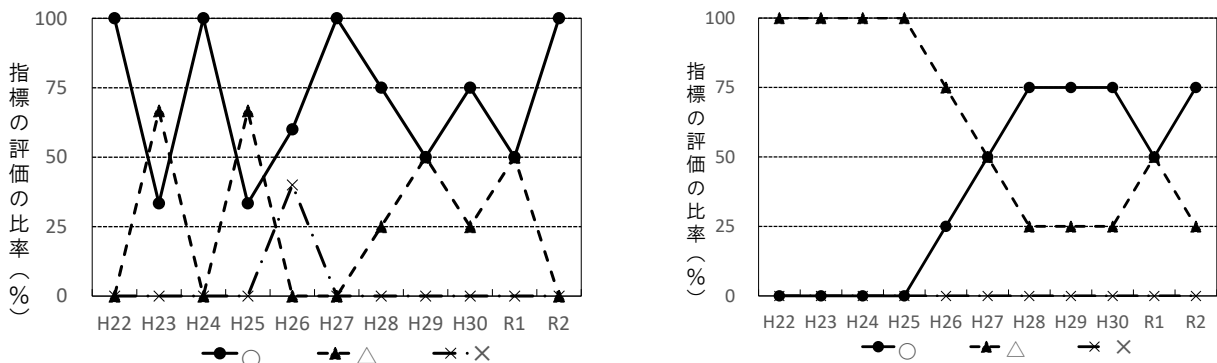


図 3-15 基本目標 5 における指標の評価の比率の経年変化(左:対前年度比、右:対年度目標値比)

表3-16 計画期間における基本目標5の指標の達成状況

施策	指標 (単位)	H21年度 (基準値)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値		
基本目標5	1 一般廃棄物対策の推進	市民1人1日あたりのごみ総排出量(g)	-	944	948	946	940	928	913	891	882	873	881	866	867	
		対前年度比		基準年度	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	(R2年度)
		対年度目標値比		基準年度	△	△	△	△	△	○	○	○	△	○		
		一般廃棄物再生利用率(%)	21.8	22.5	22.3	22.5	22.5	22.6	24.2	24.0	23.6	23.5	23.1	24.0	25.1	
		対前年度比		○	△	○	△	○	○	△	△	△	△	○		(R2年度)
		対年度目標値比		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	2 産業廃棄物対策の推進	産業廃棄物最終処分率(%)	-	7.4	7.3	7.0	7.0	6.1	3.7	3.6	3.7	3.3	3.2	2.9	3.5%以下	
		対前年度比		基準年度	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	(R2年度)
		対年度目標値比		基準年度	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		産業廃棄物排出量(千t/年) ※実績は1年度前の数値	1,438 (H20年度実績)	/	/	/	/	/	1,566 (H25年度実績)	/	/	/	/	/	/	1,438
		対前年度比		-	-	-	-	×	-							(H28年度)
		対年度目標値比		-	-	-	-	△	-							
基本目標5	産業廃棄物最終処分量(千t/年) ※実績は1年度前の数値	産業廃棄物最終処分量(千t/年)	25 (H20年度実績)	/	/	/	/	22 (H25年度実績)	/	/	/	/	/	/	10	
		対前年度比		-	-	-	-	×	-						(H28年度)	
		対年度目標値比		-	-	-	-	△	-							
		産業廃棄物最終処分率(%) ※実績は2年度前の数値	-	1.7 (H20年度実績)	/	/	/	/	1.4 (H25年度実績)	/	/	/	/	/	/	1.2 (R2年度) (H30年度実績)
		対前年度比		基準年度	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	
		対年度目標値比		基準年度	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	

注) 網掛けした指標は、指標の見直し等を行ったため達成状況の評価を中断しています。

《エコ・ラム6》「第2次さいたま市環境基本計画」を策定しました

本市では、さいたま市環境基本条例に基づき、市民の健康で安全かつ快適な生活の確保の実現に向けて、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に「さいたま市環境基本計画」を策定しています。

平成23年に改訂した「さいたま市環境基本計画（改訂版）」の期間満了に伴い、令和3年度を始期とする「第2次さいたま市環境基本計画」を策定しました。

【計画期間】

令和3年度（2021年度）から令和12年度（2030年度）まで

【計画の基本方針】

① SDGsを意識した施策の推進

SDGsの概念に基づき、持続可能な社会を構築する基盤と捉え、地域の社会や経済の向上に繋がるものとして、分野横断的に取り組みます。

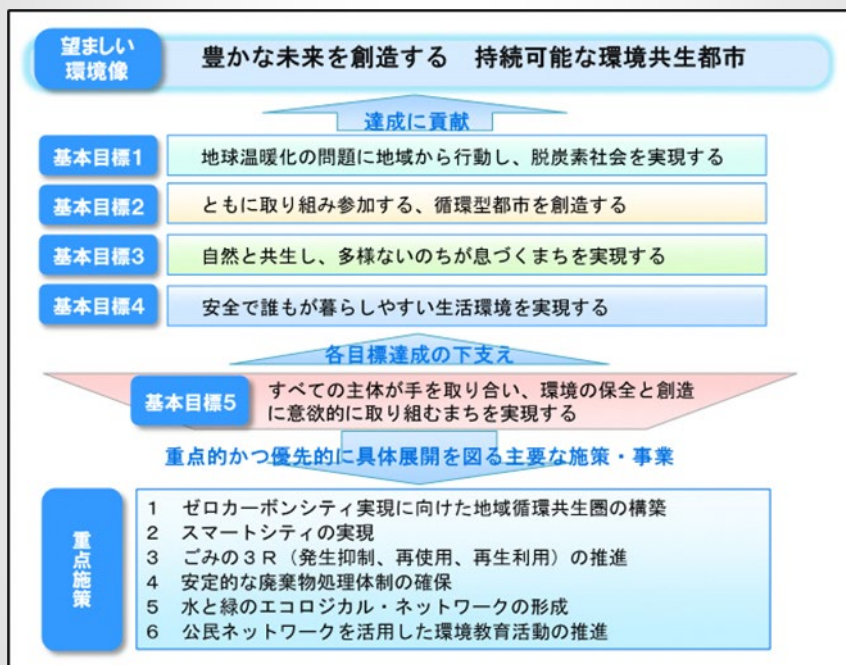
② 多様な主体との連携による施策の推進

市内における連携・協働の輪をさらに広げるとともに、他地域との連携を深め、環境保全の取組の幅を広げていきます。

【望ましい環境像と基本目標】

環境政策に関わる国内外の動向等を踏まえ、本市の目指す「望ましい環境像」を着実に実現していくため、4つの環境分野ごとの基本目標と、それらの基本目標を実現するための各分野を横断する共通目標を合わせた5つの基本目標を掲げています。

また、重点的かつ優先的に取り組むべき施策・事業として6つの重点施策を設定しました。



【推進主体・体制】

市民、事業者、学校、行政がそれぞれの役割を果たすことに加え、各主体が連携・協働して本計画の取組を推進し、パートナーシップによって良好な環境を保全・創造していくことにより、本計画の目標達成を目指します。